

## 岩見沢市議会議員

# 平野よしふみ

後援会通信  
YOSHIFUMI HIRANO

【発刊号】

平成26年10月発行

発行責任者：後援会長 内田茂伸

【後援会連絡先】

〒068-0043 岩見沢市北3条西4丁目1-18

平野よしふみ後援会事務所

(TEL) 0126-25-6512

# No. 1

このふるさと岩見沢を誰よりも愛している平野義文君。今、彼は市議会というステージで、岩見沢に熱い情熱を傾け、未来を創造しようと奮闘しています。彼はリーダーとしての資質に恵まれ、熱い行動力に裏打ちされた、「責任世代」を自覚する若者であります。

前回の補欠選挙においては、幅広い層より大変多くの御支持を頂戴し初当選。その後の活躍は、皆様もご承知のところと思います。現在は、一人の議員として、愛すべき岩見沢の更なる発展のために、日々研鑽を深め、しっかりした一本の軸を据えて未来に向かって進んでおります。

岩見沢の未来を平野義文君に託し、我々も、彼の活動を大いに支援していきたいと考えております。岩見沢のまちに、そして市民一人ひとりに笑顔の花を咲かせる。「花になるより、花を咲かせる土となれ」彼は岩見沢の未来のために、そして市民のために、自ら土となる覚悟でまい進しています。平野義文君を先頭に、多くの皆様と共に、岩見沢をより住みやすい街にしていかなければと考えるところであります。

これからも熱いご支援、ご協力のほどを賜ります事をお願い申し上げます。

平野よしふみ後援会会長 内田茂伸



## ごあいさつ

皆様のお力添えにより、平成二四年九月に補欠選挙にて初当選をさせていただきました。その後、無我夢中で市政に対し研究と実践を重ね、ここに来て、大変遅ればせながら記念すべき第一回目の後援会通信を発行できる運びになりました事に心から感謝を申し上げます。

早いもので当選から二年が経過し、少しだけ入りすぎていた肩の力も抜けつつ、自分の中でこれまで臆気だった課題も明確になり、より現実的な市政に対する心構えと覚悟を身につけられてきたと感じているところです。

あらためて多岐にわたり山積している行政課題を解決していくにあたり、すでに対処療法や利権誘導が主軸の政治信条では立ちゆかないものと確信しています。そこで、私自身の考えとしては議員一人ひとりの能力というものが今後益々重要であり、そのためには日々、あらゆる機会の中で研鑽を積むことが必要だと認識し、実際に地域や党派を越えた中での勉強会への積極参加、また市内で課題を解決していくとする意思のある方々との政策団体の立ちあげ等、いつも前向きに将来の岩見沢を見据えた中で、「全体最適」を判断軸に責任ある行動をしていきたいと考えています。若輩ゆえ、まだまだ至らぬ身ではありますが、是非とも叱咤激励をいただきながら、今後も着実な一歩を進めていきたいと考えています。どうか宜しくお願い申し上げます。

平成26年9月  
平野 義文



平成24年9月の当選以来、本会議で5度の一般質問を実施。委員会等でも数多くの質問、提案により市政の方向性を導くべく活動を行っています。その質問内容と答弁については、ホームページのブログの中で確認できるようになっていると共に、後援会事務所でもご覧頂けるようになっています。

## インタビューから見える活動への想い

### 1 本会議での一般質問は議員としての本領発揮の場

当選してから1年に満たない頃、今後の議員活動のあり方について迷いが発生していた時、元恵庭市長の中島興世氏が主宰している北海道立志塾の門を叩かせていただきました。そこで教わったことは、議会における一般質問は議員の権利であり、そこは短絡的な質疑を行う場ではなく、「自身の考えを述べ、それに対する多くの共感者を得ることを目指すべき。」という事でした。それに大いに刺激を受け、私自身の一般質問は、議場で自分の考えを伝え、職員レベルから共感者を増やしていけるような内容を目指すようになりました。



### 3 調査研究は議員の責務です。

私は自分の議員としての役割を、①地域の課題を認識すること②その課題を解決する方法を見つけること③それを市政に反映させること。という風に考えています。現在大きな課題（小さな課題は随時実行）として設定しているのが、除排雪や子育て環境等、選ばれる岩見沢となるための地域の独自性の醸成についてです。どちらも研究のために数多く実践の場に入り込ませていただき、現場の空気からフィードバックを得ています。

\*様々な調査研究実践の様子はブログで公開しています。



札幌市某小学校でのテーブルコーディネーター役



高齢化と豪雪に対する将来像の研究  
札幌発雪はねバスツアーの同行調査

### 5 議員の役割とは？①

例えば、豪雪による影響が著しいこの岩見沢においても、「もっと費用がかかっても除排雪を充実させるべき」という方や、「基本的に生産性の無いものにこれ以上の多大な予算を投入するのはいかげなものか」等々、その考え方は人それぞれです。これは行政が携わるあらゆる分野の事項で発生し、その判断には、地域全体を俯瞰する全体最適の視野が必要です。議員でいると言うことは、「彼がそう判断したのならそうなのだろう。」と信じて託していただける事が本意だと思っています。だからこそ、その信用を得られるように日々自己修練の中で研究、研鑽、実践していく事が不可欠だと信じます。



## 平野議員に市政への想いを語っていただきました。

平成24年9月～平成26年9月

### 2 岩見沢の課題は私の課題

皆様ご存じの通り時代は大きく変わり、今は人口減少、高齢社会が到来しました。この岩見沢市においても平成23年→24年で937人の人口減少。平成24年→25年で1,378人の人口減少とそのスピードは加速しています。また、高度経済成長期に整備された様々な公共施設は近い将来、老朽化が著しい状況になってしまいます。経済が縮小するのに対し、行政の支出は大きく増加することから、社会保障の類も充実が難しい状況に陥ると想像されます。それを解決するには税収を減らさないことが目先の目標と考えています。まずは「選ばれる岩見沢」を実現すること。それが出来れば様々な課題を解決する近道になると信じており、実現に向け最優先で取り組みます。

### 4 ありがたい事に公にお話する機会に恵まれています。

私は議員になる前からまちの活性化における活動に携わっており、その延長線上で議員への立候補の機会をいただきました。この立場をいただいてからもその思いは変わることなく、岩見沢市の特色づくりのための活動を続けています。そのため、まちづくりに関わる講演やシンポジウム参加の機会も数多くいただき、自身の考えを述べさせていただき、志を同じくする仲間との出会いに恵まれる一助にもなっています。（機会がありましたら、ホームページのプロフィール欄もご覧下さい。）



画像はまなみーる大ホールで行われた、岩見沢市立緑  
高校情報コミュニケーション科課題研究発表会にお  
ける基調講演の様子

### 6 議員の役割とは？②

本年の第一定例会において、議員定数が26名から22名と削減が決定しました。この定数削減の流れは、議会が市民の期待に応える機能を発揮していれば発生しえないものと考えます。なぜなら、行政機能をチェックするのにそれを行う体制が縮小するということは、結果として市民に影響がでることになるからです。しかし現実には市民から「議会の機能が発揮されていない。ならばそもそも人数は必要ない。」という評価の現れと認識しています。私の考えは立候補時から変わりなく、議会というものは単なるチェックや審議するだけの機関ではなく、今の時代にあった全体最適を見越した「提案型の議会」に生まれ変わる必要があると信じています。そのためには議員一人ひとりの能力の向上が不可欠です。自身も襟を正し、能力向上に努めていきます。